

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1270902248		
法人名	有限会社 アートアシスト		
事業所名	グループホーム つぶぞろい		
所在地	千葉県船橋市本町5-19海老川マンション (電話) 047-426-0112		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成20年12月5日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤12人, 非常勤 5人, 常勤換算	15.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	116 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	8	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 82歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東部塚田クリニック、船橋総合病院、デンタルクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所はJR船橋駅近くの商店街を通り抜けた静かな住宅地にある高層建築の1階と2階を使って運営している。付近は車の往来が少なく地域の住民とは接しやすい環境である。事業所の方針は理念の「してあげるケア」から「一緒にするケア」の実現の為に、現場での実践の中で利用者と共に過ごしながら利用者の満足感を得る取り組みをしている。年々介護度が高まって職員の負担も増していく中で利用者の体力を維持するように努力している。離職者が少なく職員が責任を持ってサービスに取り組んでいることが家族の調査でも高い満足度に繋がる結果となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回4項目の指摘は改善された。理念を職員に徹底する指摘に対しては、全員が認識出来るように掲示されている。地域での共通理解を得る為に講演会を実施することでは、認知症の講演を施設長が行っている。ボランティアでフラダンスを受け入れるなどの改善がされた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価では地域のグループホームだけではなくサービス事業所全体の交流の機会を設けて互いのサービスの研修を行っていきたい。開所以来5年を経過してADLの低下を避ける為、部屋から出て共に過ごして体力の維持を図るようにする。等の重点活動を検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年2回目の運営推進会議が11月に開催された。利用者代表、包括支援センター、町会長、自治会長、事業所から施設長、ユニット長が参加して、テーマは地域の小学校との交流の状況報告や地域の人を対象に行った認知症理解の講習会実施結果の報告が行われた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の苦情は発生していないが事業所からは行事の状況を知らせている。遠方の家族が多いため家族会の開催は難しいが家族が訪れて来た際にはユニット長が必ず話し合せて意見を聞いている。利用者の入れ歯がなくなる苦情が発生して後で部屋の中から発見されたことがあったが、職員は全員で話し合いを行い再発の防止に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で認知症の理解を深めてもらう講演会を開催して大勢の人が参加している。利用者が急に外出した際には近所の人々がすぐに知らせてくれたり、又散歩の時に庭の花をいただくなど同じ住民同士の関係を築いている。小学校の行事にも招かれ子供たちと楽しく過ごしているなど地域との連携が深まってきている。



2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5年前に開所して以降、事業所の目指す姿、理想は第二の家「してあげるケア」から「一緒にするケア」を理念として取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下に掲示している。理念を受け、例えば、職員は利用者と一緒に出来ることとして、食事の準備・掃除など利用者の能力に合った役割を決めて生活の中で満足感を持ち続けるようにしている。		理念を全員が認識出来るように掲示をして改善しているが、全ての職員にはまだ理解が出来ていない面が見受けられた。今後ミーティングの場などを利用して理念の理解と共有を図る取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、利用者は、小学校の音楽会、6年生を送る会や運動会などに訪問している。小学校でのボランティア行事にも一緒に参加している。中学生の職場体験や地元福祉学校のヘルパー研修の実習を受け入れるなど交流は深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にあたっては、前回から8か月の経過にもかかわらず、積極的に対応している。前回期待する事項とされた理念の掲出、研修の充実、ボランティアの活用などの点はそれぞれ改善の方向に進んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、11月に利用者代表、包括支援センター代表者、町会長、自治会長、事業所から施設長・ユニット長が参加して開催した。事業所からは小学校との交流の内容と地域の人々への認知症研修会実施の報告を行っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の包括支援センターの責任者と困難事例について話し合っている。生活保護担当部門とも定期的に話し合いをしている。市内のグループホーム連絡会は、定期的に開催して施設長自ら運営の推進役を努め、市と情報を交換し、連携して研修会など行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に対し年間2～3回発行の広報誌「つぶぞろい」を送って事業所の行事の様子を知らせている。遠方の家族が多いため家族会は開いていない。家族の面会の折に、いろいろな状況を説明している。</p>		<p>家族会などの開催による交流は状況から見て困難と思われるが、事業所から家族に毎月請求額を連絡をする際に事業所での利用者の様子をまとめて知らせるなどの取り組みを検討されるよう期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の手順は、運営規程に規定している。家族等の意見は、面会の折の話し合いや電話などにより把握に努めているが、運営管理に直接反映させる事例はあまりなく、日々のケアにかかるものがほとんどである。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度の退職者は1名で定着率が高い。職員には「ケアの内容が全て利用者のためになることなのかどうか」をよく考えて責任を持って活動するよう指導している。また残業の勤務は行わず、人事考課での評価のランク付けは実施はしていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症にかかる外部研修にユニット長が代表して参加している。その受講の中から学んだセンター方式を実務に取り入れて改善をしている。内部研修は実践教育を重んじており「親にしてあげたい事を利用者にしてあげる」などの考えをミーティングで指導している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会は年間4回開催、事業所からは施設長とユニット長が参加している。各事業所の課題であるノロウイルス、結核、転倒などについて議論して運営の参考にしてしている。内容は職員に報告している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所の際には不安を和らげるために、他の利用者とお茶を飲んだり折り紙を一緒に楽しむなど身近に寄り添う形を通じて馴染むようにしている。3ヵ月間は職員が昼夜を通じてつきっきりで利用者の気持ちを汲み取りながらケアをしている。馴染みのものとして、湯飲み、布団まで持ち込むこともある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の意思表示や訴えをとらえるために、職員は、話しかけることに心掛けている。ことに散歩、入浴中の話は利用者にとっても楽しい場面である。職員は、利用者が声掛けに応え、又熱が下がり笑顔が見えた時等は嬉しく、働き甲斐を感じると述べている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者は、認知症の症状が重く、意思疎通が難しい者が多いが、本人の意思表示のほかに、家族に面会の折、暮らし方の考えを求めたり、話し合いにより意向を把握している。また、入所前にいた病院の情報や民生委員の話など幅広く情報を得るように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス計画書は、きめ細かに作成されている。状況の分析にあたっては、昨年からいわゆるセンター方式によるアセスメントシートを用い克明に内容を記録している。又本人のいろいろな考え方を示す気持表現区分表や認知症の症状の調査票は、職員の観察の意欲が伺え、かつ情報の共有に資している</p>		<p>計画づくりや申し送りなどにおいて、個々に職員の意見交換は行われているが、2つのユニット相互や全体をとらえての意見交換の場は少ないように見受けられる。交代制の勤務実態から無理も多いと思うが、全体的な会議や研修等の機会を多く持つよう工夫し実施することを望みたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状況の変化は大きいものがある。家族、医師、看護師の意見をもらいサービスの提供に努めて、必要に応じて計画の変更をしている。施設では、状況を記録するケア会議録や支援困難事例相談表と名付ける個人の支援経過がわかる記録を作成し始めた。計画の見直しや日常のケアに役立てるものであり出来上がりが待たれる。</p>		<p>利用者の日々の状況や生活する上での意向などは、きちんとはとらえ、その内容を記録することにより、皆で情報を共有しサービスの向上につなげることは大切である。現在作成中のケア会議録と支援困難相談表はこの意にかなうものであり、早期に完成することを期待する。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>管理者は、今後は認知症ケアの地域における拠点として近隣の事業所と連携を図り対応できるようにしたいと思っている。利用者の外来医療にあたっては、家族が遠いものが多いので病院へは職員が同行している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけの内科医は2週間に1回訪問してもらい、個別の医療面での指導を受けている。ことに認知症や感染症について適宜助言をいただいている。家族へは病院での処置が必要な時には必ず連絡することとしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>施設は、重度化における対処やターミナルケアを行うことを基本ととらえている。入所時に延命治療に対する考え方を聞き文書にして急変の時など医師に提出するようにしている。今まで5名の看取りを行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者が全員女性であり、プライバシーは、ごく普通の対応であるが、さりげなく職員がトイレへ誘導するなど日常的に配慮している場面が見られる。ミニコミ誌などに写真を多く用いているが、入所時に、このように掲載する旨の説明をし、家族の了承を得ている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設の方針として利用者のためになるサービスの提供を打ち出しており、個々の嗜好や生き方、趣味等をサービスに生かしている。日課として昼寝の時間はとらず、習字、ぬりえ、縫物、折り紙、編み物など趣味活動や散歩、買い物などを盛り込んで生活している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも職員が利用者とともに調理している。献立表は、季節ごとの標準的なものは用意しているが、食材の冷蔵庫での保管状況や買い物に出た時の様子などを勘案して、毎日の献立を組み立てている。食事は一堂に会し、職員も介助しながら食事を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	設備は社員寮のものをベースにしているので比較的小さい浴槽であるが、入浴は週2回行っている。体調のチェックや転倒の防止にことに注意をして介助にあたっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いを持つため、朝から体操や合唱、午後は趣味散歩買い物など多彩な日程を取り込みいつも賑やかなようである。また台所、テーブル拭き、ぞうきんがけ、掃除機、もみ洗いなどの役割をもち、これが励みになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日午前と午後日課として行っている。買い物も必要な時出かけている。花見の季節にはあやめや桜を見に出かけて利用者が楽しく過ごしている様子がリビングに貼り出されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設は開放的なグループホームを目指しており、玄関は午後8時まで鍵をうけない。また居室においても鍵は終日かけていない。たまに外出し徘徊する者もいるが職員が見守ったり、近所の人との協力によりケアしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火訓練は地元消防署と連携して実施している。地域の方は参加していないが利用者全員が参加する避難訓練が行われている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>3食の調理にあたっては、栄養が偏らないように配慮して食材を用い、また摂取量や水分補給の量を確認している。食事は常食を主とするが、一人一人の状況に応じて刻み食、おかゆなどを用意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日中は食堂兼のリビングに全員が揃い生活をする体制をとっている。そのためにも食卓のほか壁に面して椅子やソファを置くなど皆がくつろげるよう配慮している。玄関廊下には、利用者の日ごろの写真を張り出したり、部屋の名札も親しめるものを工夫して作成し和やかな雰囲気醸し出している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、利用者の一人一人の状況に応じベットや家具などを配置している。多くの品物を持ち込み自宅の一室を思わせる部屋や異食防止を配慮した部屋などそれぞれ特徴がみられる。ベットはADL低下による対応として最近電動に切り替えたものもある。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。